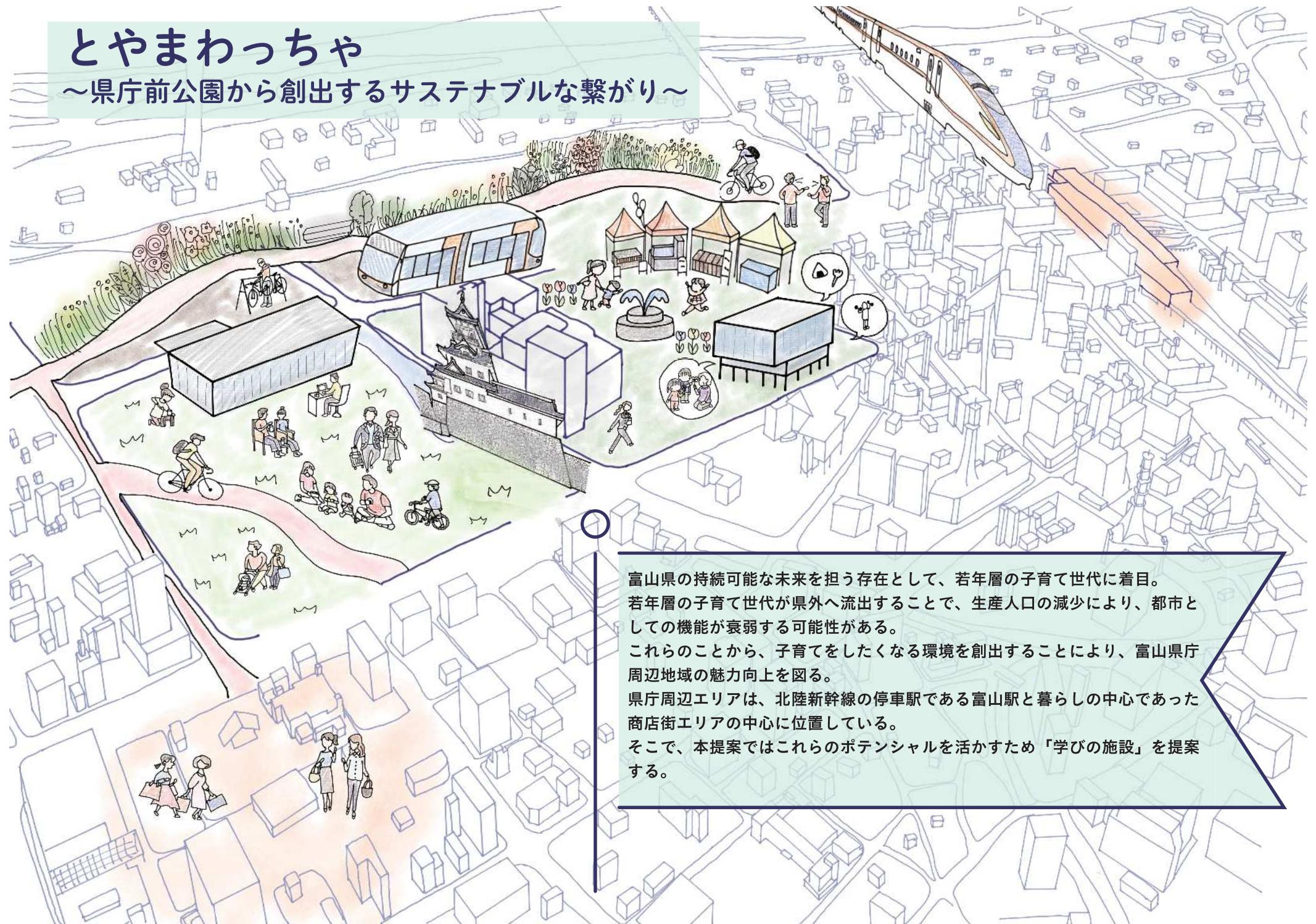


とやまわっちゃん

～県庁前公園から創出するサステナブルな繋がり～



富山県の持続可能な未来を担う存在として、若年層の子育て世代に着目。
若年層の子育て世代が県外へ流出することで、生産人口の減少により、都市としての機能が衰弱する可能性がある。

これらのことから、子育てをしたくなる環境を創出することにより、富山県庁周辺地域の魅力向上を図る。

県庁周辺エリアは、北陸新幹線の停車駅である富山駅と暮らしの中心であった商店街エリアの中心に位置している。

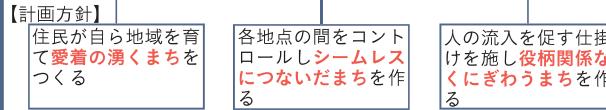
そこで、本提案ではこれらのポテンシャルを活かすため「学びの施設」を提案する。

コンセプト

商業の発展とともにレベルの高いガラス工芸が行われ、富山県には多彩な文化が根付いた。災害が少なく住みやすいまちであるとともに女性就業率や共働き率が高いことからも働きやすい環境が整えられていることをうかがうことができる。そんな居住地としても観光地としても魅力あふれる富山県の新しい担い手の不足という問題に着目した以下のような提案を行う。

【将来像】

富山を担うプレイヤーが持続的に生産される永久都市



【主な提案】

- | | |
|--------------|-------------|
| ①地域センターの設置 | ②アヴィレロードの整備 |
| ③県庁前公園の花壇の設置 | ④もてなしハウスの設置 |

①と③の提案によってさまざまな世代の人があつた場所に集まり関わることで住民自身の「そだてる」というアクティビティを創出する。
②と④の提案によって来街者にLRTの停留所等の間にある魅力を知ってもらい、住民だけでなく観光客までもが感化されるムーブメントを創出する。

富山県庁周辺エリアの現状

●魅力

- 子育て支援が充実している
- レンタルサイクル（アヴィレ）やLRT、バスといった交通機能が充実している
- 城址公園を含む県周辺エリアは植栽や川、堀といった自然が豊か
- 県庁前公園では定期的にマルシェが開催され、城址公園でもイベントが開催されている

●課題

- 放課後に子どもが遊べる公園や遊びの施設が少ない
- 共働き率が高く冷凍食品等の利用率が高い
- 富山駅から商店街地区まで歩くには距離がある
- レンタルサイクル（アヴィレ）の利用率が低い
- LRTから見る景観があまり良くない
- 商店街に空き店舗が多く見られる
- イベント開催時には賑わいが見られるが、日常的な活発力はない



ターゲット

●子ども

富山県では令和6年10月から「とみいくデジタルポイント」が「とやまっ子子育て応援券から生まれ変わっている。これによりこれから増加が期待できる子どもをターゲットに提案する。



●ワーカー

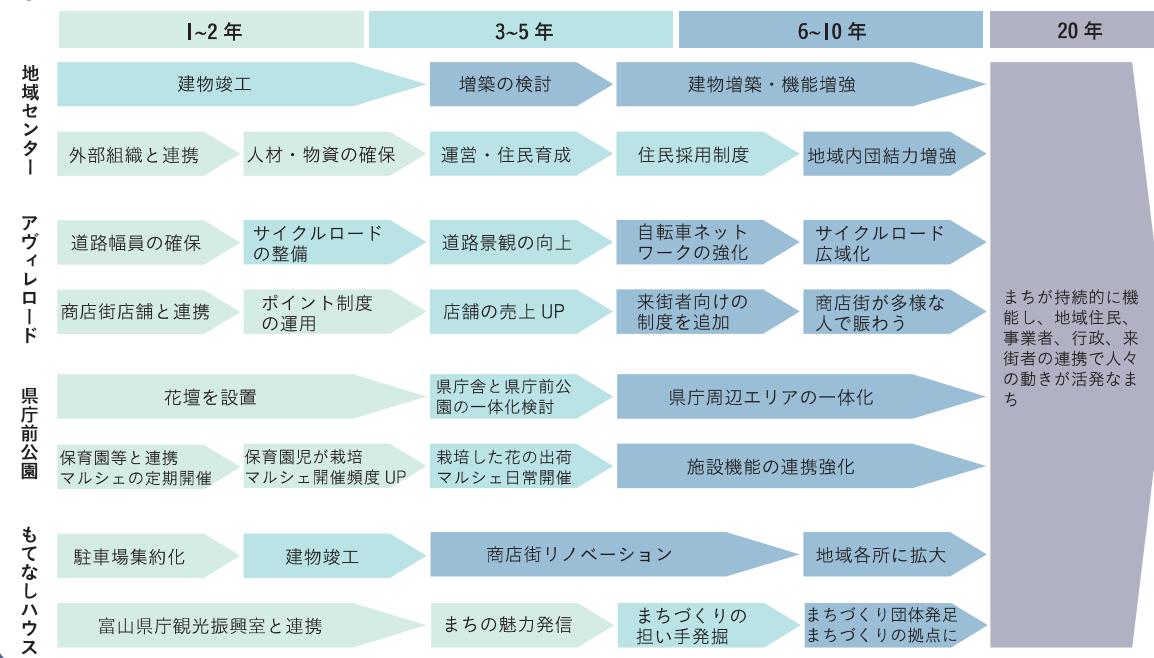
県庁周辺エリアでは、県庁職員やその他オフィス等のワーカーが多く存在する。彼らにとって有意義な空間を作ることで、「富山で働きたい」と考える若者を生み出し県外への流出を阻止する。



●来街者

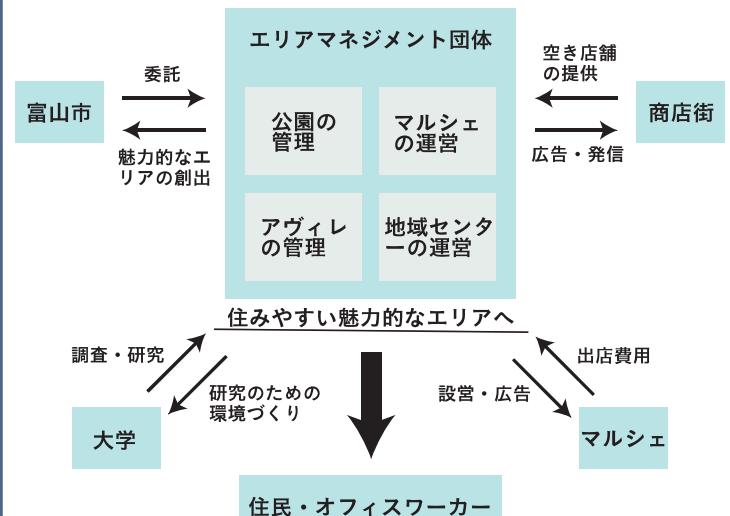
子どもやワーカーといった地域住民のみではなくても閉鎖的になってしまふ。新規来街者にとっても魅力あふれる街を作ることで、「また来たい」、「富山に住んでみたい」と考える人を創出する。

スケジュール



スキーム図

富山駅南北一体的なまちづくりプラットフォーム



県庁前公園

大きな噴水と富山県のはなであるチューリップの花壇による空間が **まちのシンボル** となる。チューリップは保育園に通う児童が栽培に関わり、完成したものは商品として出荷される。現在噴水の周りで定期的に開催されているマルシェの開催頻度を上げ、将来的には **日常的な開催を目指すこと** で、多様な人々で溢れる空間となる。

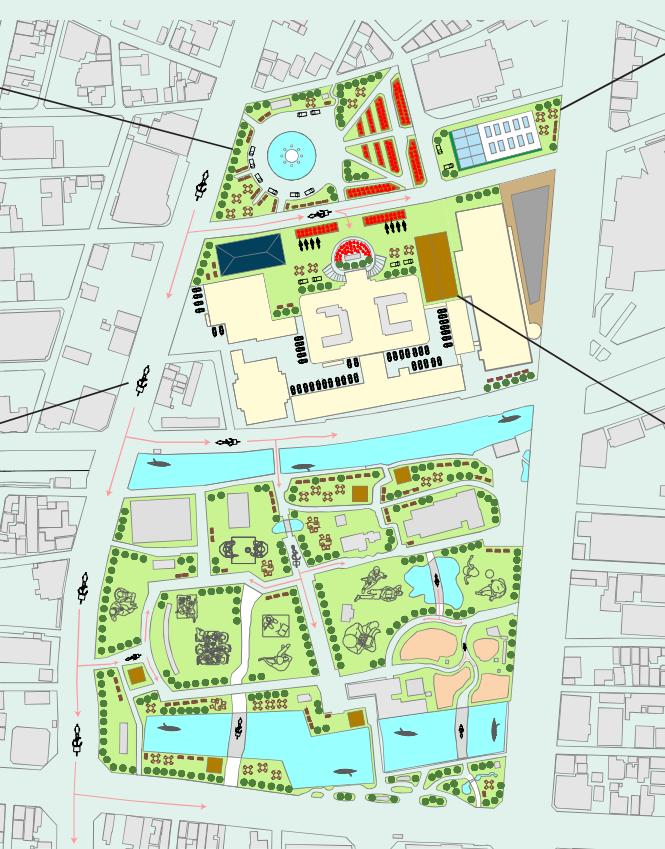
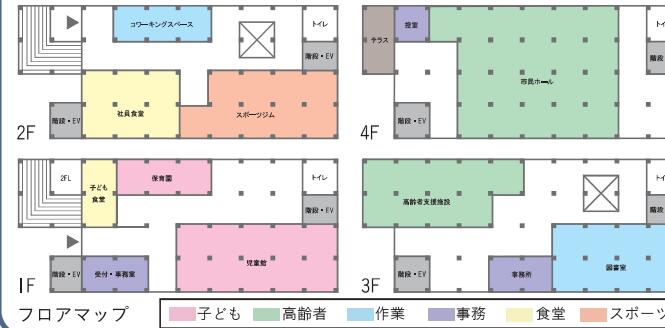
将来的には、エリアを一体化し、より緻密な連携が取れるシステムを構築する。



観光客

地域センター

県庁前公園の東側に位置する旧 NHK 富山放送会館跡地に、さまざまな機能を持ち合わせた地域センターを提案する。我々の設定する「学び・子育て」コンセプトに沿って、社員食堂・子ども食堂・スポーツジム・児童館・保育園・図書室・高齢者支援施設を設け、**地域に住む人々の拠点となるような施設**を作る。富山県では共働き率が高く、冷凍食品等の消費量も全国トップクラスである。社員食堂では、県庁舎や周辺のオフィスで働くワーカーたちが栄養価の高い食事をとることができる。また、**共働きで放課後家に親がおらず食事がとりづらい子どものため**、子ども食堂を共に設置する。子育て支援の充実でこれから増加が期待できる子どものため、児童館や図書室は「学びの空間」となる。さらに、自動車に頼ることが多い富山県では歩く機会が少なく健康に影響が出ることを考え、スポーツジムの設置でワーカーが職場から出て「ちょこっと身体を動かす」場を提供する。豊富な世代が交流できる場とするため、高齢者支援施設を設け、子どもから高齢者まで多様な人が利用する地域センターを作る。



もてなしハウス



新たに訪れる来街者の「**また来たい**」、「**富山に住みたい**」という声を勝ち取り県外からの新規住民を獲得するため、観光客をもてなす空間として「もてなしハウス」(カフェ兼休憩所)を設置する。ここで**富山の魅力を発信**しつつ、富山の**新しい扱い手**を発掘する。サイクルロードを整備するにあたり、自転車で来る観光客が休息を取り場所としての意義も果たす。将来的には、**発掘した扱い手や地域の人々共にまちづくり団体を結束し運営を行政から委託**、施設もまちづくりの拠点にアップデートする。カフェで得た収益を用いて、拠点を拡大し日本屈指の観光名所を目指す。

アヴィレード



観光客

サイクルポートが数多く存在しても関わらず、あまり使われていないという事実がある。この原因として、自転車の道が整備されていないこと、その道中の**景観がいまひとつ**であることが挙げられる。LRT 沿いに**サイクルロードを整備**することで、歩くには時間がかかる富山駅から商店街地区まで**シームレスにつなぐ**ことができる。それと同時に、路面電車からの景色がより華やかなものとなり、地域としての魅力が向上することが期待できる。また、城址公園内もサイクルロードを整備することで、富山城という**歴史や自然を身近に感じながらサイクリング**を楽しむことができる。また、近隣店舗と連携して、**アヴィレの利用ごとにポイントがたまる制度を運用**する。たまつたポイントを商店街地区の店舗で使えるようにして、**自転車利用の促進と店舗利用の向上**を図る。将来的には、ターゲットを観光客にまで広げた制度を適用する。